



第6学年「電磁石の性質」協力磁石の実験の様子



第3学年「じしゃく」釘を磁化している様子

■実践内容：

今川小学校では、64年間理科の主題研究を行っている。理科離れが進む今日の現状であるが、本校が続けている理科教育を本助成を有効活用してよりダイナミックに展開したいと考えた。本校では、理科発展学習を充実させるために「理科発展学習プロジェクトチーム」を組み、そこでの話し合いで、下記の2点を重点化したいと考えた。

- ・ 電磁石(磁石)に重点化し、豊かな体験活動やものづくり活動を仕組むことで科学的なものの見方を育てる。
- ・ 実験や観察の結果を交流しあう活動に焦点を当て、促進することで科学的なものの見方を育てる。

以上の2点から、第6学年「電磁石の性質」、第3学年「じしゃく」の発展学習を中心に、理科授業において体験活動やものづくり活動を積極的に行い、実験や観察の結果を相互交流していった。

■実践成果：

本助成による教材を活用し、実際に体験を伴った発展学習を通して、自ら主体的に学習しようとする態度が培われ、児童が多様な視点で科学的なものの見方をする力を高めることができたと考えられる。

また、実験や観察など、豊かな体験活動だけでなく、本助成で購入した「簡易教材提示装置」と「e 黒板アシスタント」を活用することで、これまでの本校主題研究で課題であった効果的で活発な相互交流を行うことができた。本教材を理科・生活科で活用することに限定することで、特に理科の授業において効率的な相互交流を行うノウハウが蓄積されつつあると考える。

本校で64年間続く理科主題研究において、これまで理科ポートフォリオのあり方や理科ノート構成の工夫などを研究してきたが、今回これに構造的な板書や資料提示の工夫改善をプラスでき、インタラクティブな総合交流が行われつつあることは、まさに新たな一歩が踏み出されたと考える。

■実践ポイント：

- ・ 「理科発展学習プロジェクトチーム」を中心に学校全体の組織的に実践を行ったこと。
- ・ あくまでも理科(生活科)での活用に限って活用の方途をさぐったこと。
- ・ 電磁石(磁石)にしぼったことで、発展学習がよりダイナミックに展開し、豊かな体験活動で科学的なものの見方が培われたこと。
- ・ 今後は総合的な学習の時間でも提示装置や黒板アシスタントの有効活用を探っていくこと。